

令和5年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	グローバルな視点を基にした小中一貫カリキュラムの開発・推進（特別支援学級との連携・共同学習を含む。）事業
事業実施代表者名	寺田 貴雄（札幌小）、萬谷 隆一（札幌中）
実施附属学校園名	附属札幌小学校、中学校、同特別支援学級
事業内容 （実施内容について、500～1,000字以内で記述）	<p>これまで各学校・特別支援学級で取り組んできた教育の実践的研究並びに、通常学級、特別支援学級におけるインクルーシブ教育についての実践事例研究を基とし、新たにグローバルな視点を切り口とした小中一貫カリキュラムの開発に取り組む。小中一貫した教育の実現のために、各学校・特別支援学校における子どもの実態を共有し、最大9年間の附属札幌での学びの中で育てたい人間像、具体的に育成すべき資質・能力等を整理しながら、教育課程を再編していく。</p> <p>これまで、大学と附属学校が共通して育てたい人間像の要素として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究心をもち学び続ける人間 ・広い視野をもち、考え、行動できる人間 ・人との関わりを大切にできる人間 ・共に生きることのよさを感じる人間 <p>の4点を定めてきた。</p> <p>この育てたい人間像に基づき、小学校から中学校までの発達段階、また大学生までのスパンでの育成過程を想起し、各学校及び特別支援学級における日常の授業や学校行事等を通して子どもの実態や課題を捉え、小・中・特別支援学級と大学の臨床研究や先端理論等を実践の中で往還させるカリキュラムの開発を図り、教育活動を推進することで、グローバルな視点をもって育っていく人間育成に努める。</p>
成果と課題 （活動の成果と課題について、500字程度で記述）	<p>《成果》</p> <p>昨年度に引き続き、小・中・特別支援学級での合同研究会議をもち、各研究の内容の共有を進めるとともに、求める子ども像について子どもの現状を踏まえながら交流を図った。また、研究大会や授業公開に相互に参加し、それぞれの子どもの実態や問題を把握するよう取り組んできた。児童・生徒の安全に関すること、児童・生徒ならびに保護者との対応として留意すべきことなどについて、密に連絡を図り、同じ方向を見据えながら指導を進めることができた。</p> <p>《課題》</p> <p>教科・行事等において育成したい資質・能力等について、ある程度の供給はできてきているが、9年間の一貫した教育課程の具現化につなげることはできていない。附属札幌における児童・生徒の実態やその特徴等をしっかりと把握し、教育課程のどの部分を中核として、9年間を一貫して子どもの資質・能力の育成を図ることができるのかについて、全教職員による検討と共通理解を図ることが必要である。</p>

<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>附属学校における小中一貫した教育は単に接続性だけでなく、内容面や子どもの資質能力の育成に向けた段階をカリキュラムとしていかに実現していくかに注目が集まる。そのため、附属札幌の共通研究の軸として、本事業に一体となって取組を進めていく。そのため、次年度は、小学校・中学校・ふじのめ学級の各教員が参加する「連携推進委員会」を立ち上げ、9年間を見通して育成していくべき資質・能力や、カリキュラムの中核として9年間を見通して取り組むべき軸頭について検討を深め、全教員による共通理解を図るよう、取り組んでいく。</p> <p>また、小中一貫した教育についての先進的な取組を進めている他の附属学校への視察、札幌市立学校の進めている小中一貫した教育のパートナー校の取組なども参考にしながら、具体的な教育課程の編成に資する情報収集を進めていく。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>今年度はなし</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。